広報おおたわら July. 2021／No.1288

5/31 卓越した技能を称えて

技能奨励賞授与式

技能検定は、技能者の有する技術を一定の基準によって検定し、これを公証する国家検定制度で、職業能力開発促進法に基づいて実施されています。本市の産業に従事する技能労働者で、技能検定において、１級および単一等級に合格した方の卓越した技能を称え、技能奨励賞を授与しました。

今回は10名の合格者が受賞し、本市産業の発展が期待されます。

5/25 公共設置型浄化槽普及促進の功績を称えて

浄化槽優良指定工事店表彰

市では、令和２年度公共設置型浄化槽設置工事において、工事成果が優良で他の模範となり、公共設置型浄化槽の普及促進に貢献した指定工事店の表彰式を行いました。

表彰を受けた指定工事店は、有限会社野崎工業（倉骨）、有限会社田積設備工事（倉骨）です。

市史編さんだより　vol.9

民俗部会調査速報③ ～もう１“頭”の家族の話～

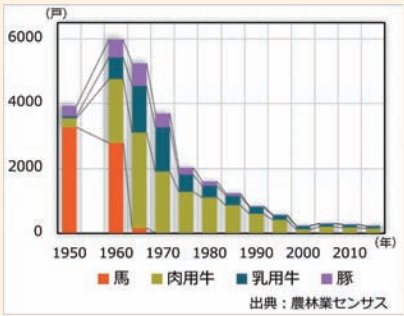
家の盛衰はお嫁さんの力量で決まるという意味のことわざに「女房は半身上（はんしんじょう）」というものがありますが、こと大田原市では「馬は半身上」という言葉を耳にします。身上とは財産を指しますので、馬は全財産の半分に当たるほど大事だというのです。

民俗部会での調査で、野良仕事の話などを伺っても、田起こしから肥料作り、藁などの運搬まで、話の節々に馬が登場します。さらに馬の話をお尋ねすると、子供の頃に馬の飼い葉を切ったこと、囲炉裏端から馬屋が見えて、馬と一緒に食事をしたことなど、家族の一員のように馬が居た暮らしを懐かしげに話されます。そんな暮らしと深く結びついた馬も、高度経済成長を機にその役目を耕運機に譲り、共に過ごした母屋を離れて、市場へ売られていきました。

ところが、人と馬の話には続きがありました。「馬のあとは牛を飼った」というお宅が割合に多いのです（右のグラフを参照）。その牛が乳牛か肉牛かは、家によりけりですが、馬が居た暮らしは形を変えながらも残り続け、今日の大田原市の重要な産業の１つである畜産業へと脈々と受け継がれたのです。

遠い過去のようで、今につながる馬の話。忘れ去られないよう、語り継いでいきたいものです。馬や牛との思い出がおありの方、納屋からオオグワ（馬耕犂（ばこうすき））や集乳缶を見つけたという方は、下記までお知らせいただき、ぜひお話をお聞かせください。

（民俗部会　石川　雄也）



大田原市域における各家畜の飼育戸数の推移

かつての牛小屋から出てきた集乳缶（両郷地区）

問 文化振興課　本 4階　TEL（２３）３１３５

発行／大田原市　編集／情報政策課
TEL 0287(23)8700　FAX 0287(23)8798
https://www.city.ohtawara.tochigi.jp
jouhou@city.ohtawara.tochigi.jp
印刷／株式会社近代工房